

18. 症状および兆候

文献

中島達哉、梅村浩史、網濱直輝、ほか. 慢性頭痛に対する鍼治療効果の検討 刺鍼部位によるランダム化比較試験. 東洋療法学校協会学会誌 2011; 35: 34-36. 医中誌 Web ID: 2012232278

1. 目的

慢性頭痛に対する鍼治療の有効性評価

2. 研究デザイン

ランダム化比較試験 (RCT)

3. セッティング

履正社医療スポーツ専門学校、大阪、日本

4. 参加者

最近3カ月に頭痛を有していた学生および教員12名

5. 介入

Arm 1: 頸部刺鍼群 4名 (男性2名、女性2名、平均年齢 28±標準誤差 8歳)。ステンレス製ディスポーザブル鍼 (0.18×40mm、セイリン社製) を用い、天柱、風池の計4穴に約10mmの深度まで刺鍼し、10分間置鍼。

Arm 2: 頭部神経刺鍼群 4名 (男性2名、女性2名、平均年齢 24±SE 4歳)。大後頭神経隆起外方2および4cmの位置で外方に向けて約10mmの深度まで横刺し、10分間置鍼。

Arm 3: 腰部刺鍼群 4名 (男性3名、女性1名、平均年齢 27±SE 4歳)。腰部圧痛部位に約10mmの深度まで刺鍼し、10分間置鍼。

治療頻度は週1回を5週、計5回実施。

6. 主なアウトカム評価項目

頭痛インパクトテスト Headache Impact Test-6 (HIT-6)を用いた、頭痛による日常生活への影響の評価。頭痛強度の Visual Analogue Scale (VAS)。頭痛ダイアリー (日本頭痛学会) による頭痛頻度。

7. 主な結果

HIT-6、頭痛ダイアリーともに前後比較による有意差は認められなかった。VASの前後比較より、頭部神経刺鍼群のみ有意に減少し、頭痛強度の改善がみられた ($P<0.05$)。いずれの指標も群間比較については記載されていない。

8. 結論

頭部神経刺鍼は頭痛に対して最も有効な鍼治療法である。

9. 鍼灸医学的言及

鍼による局所での鎮痛機構について言及している。

10. 論文中の安全性評価

記載なし

11. Abstractor のコメント

本研究は慢性頭痛に対する鍼治療の有効性を検証した研究として評価される。特に治療部位によって治療効果が異なることを示唆する結果が得られたことは今後の治療方針を考える上で重要な知見となりうる。しかしながら論文中でも考察されているように症例数が少なく、また、今回対象となった頭痛の病態も統一されていなかった可能性が否定できない。今後、先行研究の効果量から適切なサンプルサイズが設定され、頭痛の病態を統一することによって、より良い結果が得られることが期待される。

12. Abstractor and date

保坂政嘉、大川祐世 2016.10.2